



*Mayors for Peace*  
平和首長会議

## 報告書

# HIROSHIMA and PEACE プログラム

## 2016 年

参加者：イジア・ロワイヤニ

都市名：マラコフ市（フランス）

この「HIROSHIMA and PEACE」夏期講座の目的は、広島原爆投下を始めとする戦時体験のさまざまな側面に光を当てることにより、戦争と平和の本質と特性に対する一般的な理解を学生に提供し、同時に、グローバル化の時代における世界平和に関連した今日的課題を掘り下げることにあります。

2015年11月の理事会で、平和首長会議は「青少年の交流を通じて原爆の体験を未来の世代に伝える」ことを、核兵器廃絶を推進するための以後数年間の重点活動の1つに決めました。これに関連し、平和首長会議は、広島市立大学で開催される講座「HIROSHIMA and PEACE」に参加を希望し選考試験に合格した青少年に、参加経費等の支援を行うプログラムを開始しました。

核軍縮に関心を寄せるフランス人学生として、また平和首長会議フランス支部で働いてきたフランス市民として、私はこのプログラムに申し込みました。幸運にも、私の申請は認められました。

私の報告書には同プログラムを通じて学んだことに関する情報、平和活動に向けた私自身の計画、そして平和市長会議の核廃絶活動に対する具体的な提案が含まれています。

## 1 2016年 HIROSHIMA and PEACE プログラムで学んだこと

8月2日から10日まで、私は人生で最も素晴らしい経験をしました。2016年 HIROSHIMA and PEACE プログラムへの応募は、私のこれまでの決断の中で最高のものでした。

この8日間で、私は平和構築と広島の遺産、世界の核兵器、日本の降伏、平和構築におけるメディアの役割、被爆者の証言、人道法などに関する知識を強化することができました。講師の方々が柔軟な姿勢で、双方向的な講義にしようとしていたことに心から感謝します。

またワークショップも開催されました。少人数のグループに分かれ、私たちは互いをよく知り、考えを共有し、視点をつきあわせる機会に恵まれました。さまざまな背景を持つ各自の経験によって、自分自身が豊かになったと思います。

もう1つの学びの手段は、間違いなく最も効果的なものですが、被爆者2名との面会でした。恐ろしい証言は全3時間に及びました。10年、20年、30年先でも、私はその証言をきっと覚えているでしょう。このプログラムは、個人的に最も重要なものとして残っています。

同プログラムへの参加により、平和は人それぞれに異なる意味を持ちうることに、また尊重されなければならないことに気づかされました。若者は平和な世界を実現することに同じ関心を共有できても、そのための活動や方法は独自のものであるかもしれません。

平和の問題に興味を持つすべての人に、私は HIROSHIMA and PEACE プログラムへの応募をお勧めします。

## 2 平和活動の提案

私は地元の市長に平和首長会議について話をする予定です。活動に参加するよう説得します。今年、市長はいくつかの平和プロジェクトを支援したので、関心を持つ可能性はあると考えています。

来年 1 月には母校の大学で行う軍縮問題に関する講義で、私の広島での経験を共有します。また 2017 年 HIROSHIMA and PEACE プログラムに応募するよう学生に勧めます。

また母校の大学で被爆者の証言を上映したいと考えています。

広島ジュニアマリンバアンサンブルにはグルノーブル市に来ていただきたいと思います。主に小学校にアプローチし、教師に広島と長崎への爆撃について話をしてもらい核兵器使用に関する認識を促すためです。

上記 4 件のイベントを運営したいと考えています。

## 3 平和首長会議の核廃絶活動への提案

若者を巻き込んでいくことがカギです。平和首長会議は、児童教育の段階で認識を促す必要があります。私の見解では、平和教育に関する小学校教員向けのプログラムを創設することが核兵器使用に対する認識を促す最も効果的な方法になりうるでしょう。

また平和首長会議に対し、大学を通じて若い学生と協働することを勧めます。例えば、アムネスティまたはユネスコは大学に独自の事務所を持っています。